

# 小野田線に乗ってみた

日本で現役の「クモハ42形電車」が走る小野田線

**梅**雨の晴れ間に、小野田線の小野田駅から雀田駅まで乗ってみた。六つの駅(7・1キロ)を16分で走る。短いから乗車運賃も、210円とすごく安い。ほんとは雀田からは浜河内をへて長門本山まで、あと2・3キロ、5分の支線があり、これにも乗ってみたかった。この支線には、日本で現役最古(昭和8年製)の「クモハ42形電車」が走っている。この歴史的遺産は早朝に2本、夕方に1本しか走らない。事前に接続を確かめておきたい。

小野田線の駅間で、いちばん短いのは、南小野田と小野田港の間。わずか0・6キロ、時間にして2分弱だった。全国の鉄道の駅間を見ても、最短ではないか、という人は多い。残念ながら全国には駅間が0・5キロ以下というのが、いくつかある。けれども小野田線のように、3分以下の短い区間が連続しているローカル線は、あまりないだろう。

**乗**った印象は、ほとんどバスに近い。小野田駅以外は無人駅なので、駅に着くと運転士さんがホーム側のドアをあけて、降りる客から切符をうけとる。つまりワンマン列車である。これだけ短い区間なのに、山の中を走ったり、田んぼのそばを走ったり、川の縁を走ったり、鉄橋もわたるし、高架橋もある。



▲小野田セメント内前の踏切り



▲歴史遺産「とくり窯」も真近に見える



▲こんな「山中」も通っていく



▲往時をしのばせる陸橋も残る

## 次から次へと変わっていく窓の外の情景

日本のセメント産業発祥の地である小野田セメントの会社の正面入り口を通ったりもする。近代洋式セメント製造法を伝える唯一の遺構であるセメント焼成用竖窯「とくり窯」も間近に見える。ローカル線はふつう、のんびりとした旅情が売りだが、この線は逆だ。窓の外の情景が短い時間に、次から次へと変わっていく。しかも沿線には、歴史的遺産が数多くある。それを事前に調べておくと、楽しみが倍加するだろう。



▲小野田線 黒田駅

## 知ってますか？

### 本の中の小野田線 —長門本山駅—

『汽車旅ベストコース』（種村直樹著/中央書院 1989年）で長門本山駅が「海に突っ込みそうな終端」として紹介されています。「雀田から2.3キロ、二駅間を、ぶどう色のレトロ電車が一両で行き来している。長門本山駅の車止めの先は急な坂になり、海に突っ込みそうな格好。その先に青い海と、遠く九州が望める。片面ホームの無人駅。」

※本の中に出てくる「山陽小野田」を探しています。ご存知の方は、中央図書館 TEL.0836-83-2870までご連絡下さい。